

こんにちは!

村立東海病院であ



「ピロリ菌」と「特発性血小板減少性紫斑病」

胃の不調や病気は「ピロリ菌」のせい?

◎さまざまな病気に関わる「ピロリ菌」

「ピロリ菌(ヘリコバクター・ピロリ)」は、胃に生息する細菌です。かつて、胃は強い酸性に保たれていることから、“胃の中に細菌はいない”と考えられていました。しかし、1983年にオーストラリアのウォレンとマーシャルがピロリ菌を発見して以降、この菌がさまざまな病気に関わっていることが分かりました。



マーシャルはピロリ菌の研究を行う中で、慢性胃潰瘍の患者から取り出したピロリ菌をシャーレで培養し、自ら飲み込みました。そして、10日後に急性胃炎を発症したことで、ピロリ菌が胃炎を起こすことを証明しました。ウォレンとマーシャルはこの功績から2005年

にノーベル医学・生理学賞を授与されています。

ピロリ菌が関係する代表的な病気は、萎縮性胃炎と胃潰瘍、十二指腸潰瘍ですが、胃がんの発生にも関わっていることが分かっています。なお、ピロリ菌が発見されるまでは、胃潰瘍・十二指腸潰瘍は“ストレス”で起こると考えられていましたが、医学の進歩により、これまで「常識」と思われていたことが、実は「非常識」だったということが分かりました。

◎感染原因は?

日本では、年齢が高齢になるほどピロリ菌への感染率が高くなっています。高度成長期以前の生活環境において、汚染された井戸水や食品から感染したと考えられています。

「ITP(特発性血小板減少性紫斑病)」とは?

◎国指定の特定疾患(いわゆる「難病」)、「ITP」

「ITP」は免疫異常によって起こる病気です。ITPの患者さんは、自分の血小板を異物と判断し、血小板に対する抗体をつくることで血小板数が減ってしまうために、あざができやすくなったり、鼻や歯ぐきからの出血が止まりにくくなったりします。

◎ITP治療でまず最初に行うのが“ピロリ菌の除菌”

以前は、ITPに対する治療法は、ステロイドホルモンの長期投与や脾臓摘出など、患者さんの体への負担が多いわりに効果が不十分なものでした。しかし、1998年にガスバリーニというイタリア人が、自

己免疫疾患であるITPとピロリ菌との関係を疑い、ピロリ菌の除菌を試みたところ“除菌が成功した症例の血小板数が顕著に増加した”と報告しました。これ以降、ITPの患者さんの約半数がピロリ菌を除菌することで症状が改善することが分かり、今やピロリ菌の除菌療法は、ITP治療の最初の選択肢となっています。

なぜピロリ菌が血小板数を減らすのか詳細は不明ですが、ピロリ菌の持つタンパク質と血小板のタンパク質の構造が似ているため、ピロリ菌に対する抗体が血小板を攻撃してしまうのだと考えられています。

ピロリ菌の検査方法は?

◎まずは、内視鏡検査を!

ピロリ菌の有無を調べるには、①尿素呼気試験 ②血液中のピロリ菌に対する抗体の測定 ③便中のピロリ菌検査 ④内視鏡検査 があります。

①～③は体に負担のない検査ですが、胃潰瘍・十二指腸潰瘍の明らかな既往がある場合を除いて、すぐに検査はできません。まずは④の内視鏡検査を受けていただく必要がありますので、ご了承ください。

胃の不調が続く、身内に胃がんの方がいる、などの心当たりがある方は、ピロリ菌の検査を受けてみることをお勧めします。



村立東海病院 内科医 内田 秀夫

【問い合わせ】村立東海病院(☎282-2188)、福祉保険課地域医療担当(☎287-0899)